

資料 1 . ドイツの環境教育の授業例

小学校 1 年生の「ゴミの分別」の授業

(出典：柿沼利昭・市川智史・阿部治・猪瀬武則(1999)『諸外国の教育方法に関する調査研究報告書 ドイツとイギリスにおける環境教育の実践』国立教育会館)

(ショットミューターシュトラッセ基礎学校、ハンブルク州)

1 クラスを 2 分けて 12 目の児童を車座に座って、リーピッヒ先生(女性)の「事実教授」の授業がはじまった。教育実習生がアシスタントとして参加。黒板にはエコ・スクール(Umweltschule in Europa)の旗がかかっている。授業の流れをようやくすると以下の通りである。

先生： (旗を指し)読めますか。

児童： 自然

児童： ゴミを考える。

児童： 環境汚染

児童： ゴミを捨てたら環境問題と騒いだ。(経験がある)

児童： きれいな学校を Umweltschule in Europa と言うんだ。

先生： 学校の庭で何か気付きましたか？

児童： 学校園をきれいにした。

児童： 校庭にゴミが落ちていない。

先生： 庭に虫がすめるようなところをつくりましょう。

児童： 校庭でいろいろみつけたよ。

児童： (新聞紙を何枚もあげて、そこにいろいろなゴミ ビン、包装紙、新聞、汚れた手袋、バナナの皮などをぶちまける。)

児童： 庭に本当にあったの？

先生： 「環境学校 Umweltschule」と言うけど、いろいろ落ちています。何がありますか？

先生： 集めてください。

児童： (汚れた手袋をはめて子供たちが拾う。)

先生： どこに捨てればいいですか。紙を集めましょう。

児童： (プラスチック、ボール紙などを分別する。)

先生： 新しい言葉を紹介します。コンポスト(家庭ゴミなどの、都市ゴミを発酵させてつくった堆肥)です。(一斉に唱和させる。KOMPOST と板書)

児童： (分別を続ける)

先生： おかしいものがありますよ。

児童： (飲料の箱を手にして)紙ではないよ。(中の銀紙を見ないで)プラスチックだ。

児童： (その飲料用箱をハサミで半分に切る。他の子供はそれを見ている。)

先生： 紙でなければ、何ですか。

児童： 銀紙が入っているよ。

先生： 紙のほかいろいろなものが混じっていますね。どうすればいいのでしょうか。

先生： どっちに入れる？紙？金属？

児童： (プラスチックに入れる児童)

先生： コンポストはどこに入れますか。

児童： ゴミ箱。

児童： バナナ、それに草の葉も。

先生： どこに捨てているか聞いているのよ。コンポストの材料は自然ですよ。

(葉 ハーブを取り上げ、子どもに匂いを嗅がせる。)

児童： これをどこに持っていったらいいの？

先生： どこに捨てますか？(ゴミ箱を用意し、Kompost と書いたカードを見せる。)

児童： 字が違う！

児童： 大きいTと小さいtがあると教えてくれたよ。

先生： (カードを裏返す。そこには小文字で書いてある。小文字の方を表にしてゴミ箱に張る。)

先生： (箱のふたを開けてゴミを入れさせる。)

先生： (リンゴジュースのビンを取り上げ)見たことありますか。(実習生が児童の持参してくるプラスチックのボトルを表す)

先生： PAPIER (板書し、カードを表す。)このカードのものはありますか。

(カードの裏の小文字のPapierを表し、Pの発音を強調し、子どもに発音させる。)

先生： Pの音はどれですか。(Malen/Spielen と発音)

先生： なぜ紙だけ集めるのですか。

児童： 紙から洋服ができる。

先生： プラスチックから何ができるでしょう。(難しい問題で、先生はゴミ Müll 箱にプラスチックのゴミを入れる。)

先生： Müll (板書)どこに持って行くのですか。

児童： 町にあるコンテナへ。

児童： 1週間に1回自分で捨てに行く。

先生： 誰が捨てに行くのですか。

児童： 学校園へ

先生： 誰が捨てに行くのですか。(ゴミ当番と思われる児童名を板書)

先生： 金曜の1, 2限に門を開けます。

.....(子ども全員で片づけをし、新聞紙をPapier箱に入れる。)

先生： (Umweltschuleの旗について問答)

児童： (先生の指示で一斉に)Umweltschule(と唱える)

資料 2 . イギリスの環境教育の授業事例

キーステージ 2 (小学校中・高学年) アナグマのガス駆除

(出典：NCC (1990) Curriculum Guidance 7: Environmental Education (恩藤知典・野上智行監修/岸本浩訳) 東洋館, 1995, pp. 204-206)

目的

- ・ 環境を保護し改善するために必要な知識、価値観、態度、行動及びスキルを身に付けるための機会を提供する。
- ・ 児童生徒たちが、生物的、経済的、政治的、及び倫理的などのさまざまな視点から環境を調査分析することを促進する。
- ・ 環境についての児童生徒たちの認識と好奇心を喚起し、環境問題の解決に積極的な参加を促進する。

目標

知識

- ・ 動物
- ・ 人類の活動の環境への影響
- ・ 環境を保護し管理するための自治体、国及び国際的な法規制
- ・ 環境についての政策と決断はどのようになされているか

- ・ 環境問題で現れていく衝突

スキル

- ・ 口頭で、文書で、劇でまたは芸術という異なった手段を通して環境についての考え方や意見を表現する。
- ・ 環境問題について明解、簡潔に議論する。
- ・ さまざまな資料から環境についての情報を収集、分析、解釈及び評価する。
- ・ 環境問題の因果関係を見極める。
- ・ 環境問題について、筋の通った意見をもち公平な判断を下す。
- ・ 他の人と共同作業を行う。例えば、環境のためのグループ活動に参加する。

態度

- ・ 環境やその他の生物に対する正しい理解と注意、関心を持つ。
- ・ 環境問題に関する考え方の自立
- ・ 他の人の信条や意見を尊重する。
- ・ 事実と理性的な議論を尊重する。

活動

9歳から10歳のクラスで、乳牛に牛の結核が蔓延するのと人に感染するのを防ぐために、アナグマをガス駆除することについての調査が行われた。児童たちは、クラス討論でこの問題を取り上げ、あらゆる側面からの調査を計画した。このプロジェクトは、彼らが、この問題に対する彼ら自身の考え方を明らかにし、異なる考え方を発見し、さらに可能な活動計画を考え出すことを可能にした。

方法

クラス討議の中で、児童たちは、イングランド南西部におけるアナグマのガス駆除について彼らが心配していることを述べ、この問題について調査することを決めた。

彼らは、本や新聞からこの問題に関する様々な側面からの情報を集めた。地方新聞を通して、彼らは、その地域のアナグマの穴について知らせてくれるよう、人々に依頼した。専門家の助けを借りて、彼らは、学校の森の中でアナグマの足跡、通り道や穴を調査した。

彼らの心配していることを伝え、アナグマについてさらに情報を得るために、様々な機関（農務省、保護機会、テレビ局や警察）に手紙が送られた。

他の子どもたちの問題に対する理解を知るために、アンケートを企画し、各地の学校に送った。その結果、円グラフや棒グラフで表された。

児童たちは、アナグマのガス駆除について、賛成反対双方の理由を確認した。投票が行われ、この件に反対する票が過半数を占めた。そして、牛の結核の予防に関する勧告書がつけられた。

注

この例は、環境と関係する物議をかもし問題を、幼い子どもたちに認識させ動機づけるために、どのように紹介できるかを示している。活動に基礎をおいたアプローチの利用は、彼ら自身が事実に基づいた判断を行うことを奨励したであろう。